



# 野生植物研究所だより



## ● 早春の花 フクジュソウ ●

早春の花フクジュソウは、漢字で「フク」は幸福の「福」、「ジュ」は「寿」、「ソウ」は「草」と書き、大変おめでたい正月の花としても名高く、「元日草」の別名もあります。暮れになると園芸店などの店頭で、正月用としてフクジュソウが、フクジュソウだけの単品のもの、ナンテンやササ、時にはヤブコウジと共に寄せ植えにした鉢ものが並びます。これらのフクジュソウは、ほとんどがすぐにでも花が咲き始めるような状態で売り出されますが、すべて正月に花が咲くように保温され、栽培された室咲きのものです。今年は雪が多く、研究所のフクジュソウも例年より開花が遅れると思われます。フクジュソウは実生でもどんどん増えますので、種ができれば取り撒きにして増やすのは楽しいものです。皆さんも是非試してみてください。

**【フクジュソウの特徴】** フクジュソウの自生地は、北は北海道から、本州、四国、そして南は九州まで広く見られ、特に北海道から東北地方に多く見られます。花は、早いところで2月に開花しますが、宮城県の自生地では、3月から4月にかけて雪解けとともに芽を出して開花します。花は直径3cmほどで、やや赤みのさした黄金色の美しい花を咲かせます。野生のものでは普通一株に一つの花が多いのですが、栽培されているものでは枝分かれして数個の花をつけます。花には、20～30枚のつやつやした花弁があり、がくは数個あって暗い紫色をしています。朝方までしぼんでいますが、お日様が当たると、上向きに開花するという特性を持っています。おしべは多数あり、黄色です。めしべの数も多くあり、種ぶくろは短く、緑色をしています。花が終わると、細い毛のある実ができます。実はかたまって、丸い卵のようになります。その一つ一つの種ぶくろに一つの種が入っています。



**【多くの品種が楽しめます】** フクジュソウは、江戸時代、中でも文化年間ごろ、“変わりもの”を觀賞することが流行しました。キンポウゲ科のフクジュソウは野生品種に変異が多く、この時代、多くの園芸品種が選抜され、また多くの品種が作り出されました。その中には、花弁がはじめ白色で、しだいに黄色みを帯びてくるものや、うす紅色のもの、赤みのもの、中にはうす緑色など色の違うものもあれば、ナデシコの花弁のように花弁の先が深く切れ込みがあるもの、また、八重咲きのものから二段咲き、三段咲きのものまで見られます。現在、約50品種が保存されていると言われてはいますが、その中には赤花の「秩父錦」や帯白色の「弁天」、花弁の先が切れ込む「撫子」などの品種があります。

## ● 素敵な出会い ●

さる1月24日、登米市にお住まいの高橋さんという方が来所されました。高橋さんは野山を歩き植物を觀察することが大好きで、特に米山町「平筒沼ふれあい公園いこいの森」の写真を沢山撮っており、それらの写真を中心に1冊の本にまとめたという願いをお持ちでした。そこで「写真の植物の名前を教えてください」と仙台市野草園へ電話をかけたところ、相澤園長さんから当研究所所長高橋和吉を紹介され、ご訪問いただいた次第です。写真の植物は、カタクリ、ニリンソウ、シュンラン、マキノスミレ、ヒナスミレ、エイザンスミレ、エンレイソウ、シロバナエンレイソウ、ニシキゴロモ、ノハナショウブ、アサザ、マムシグサなど沢山の種類がありました。中にはイネ科やカヤツリグサ科のものもあり、実物を見ないと判断がつかないものも多くありました。そこで、押し葉標本にすることをお勧めしました。春になったら現地を案内してもらうことになり、いろいろとお手伝いできればと思っています。

### 【高橋さんが撮影された「平筒沼ふれあい公園いこいの森」の写真】



【連絡先】 〒989-6252 宮城県古川市荒谷字簗ノ子町12-2 ☎ 0229-28-3601 FAX 0229-28-4452

Blog: <http://plaza.rakuten.co.jp/wakichi/>

E-mail: [nagaguduwakichi@yahoo.co.jp](mailto:nagaguduwakichi@yahoo.co.jp)

URL: <http://www.wakichi.com/>